

2025 YOSAKOIソーラン祭り Mirai会議 in 札幌 開催報告書

【開催結果】

日程：2025年10月4日（土）・5日（日）

〈1日目〉

13:30～13:50 開会式（実行委員長・会長・加藤修副市長 挨拶）

13:50～14:30 名刺交換会

14:30～15:40 Mirai会議 第1部①・②

15:55～17:10 Mirai会議 第2部①・②

19:00～ 夕食・懇親会

21:00～22:45 二次会

〈2日目〉

9:00～ 9:30 まとめタイム・ふりかえり

9:30～11:45 公開会議・パネルディスカッション

11:45～ 閉会式

会場：アパホテル&リゾート札幌（北海道札幌市南区川沿4条2丁目）

主催：一般社団法人YOSAKOIソーラン祭り組織委員会

主管：一般社団法人YOSAKOIソーラン祭り組織委員会 札幌TWN・C-ASH・南支部

参加者：78団体 368名（スタッフ含む）

【開催テーマ】過去に学び、未来を語る

～【学び】と【交流】を通じ、過去を学び、現在を知り、お祭りの未来を参加者で考える場に！

札幌の3つの支部主催で、初めての宿泊での開催となったフォーラムは、2008年トマム開催フォーラム以来の人数を記録しました。（日帰り参加含む）

全体基調講演などのプログラムではなく、参加者全員が情報共有・交換をし新しい気づきをえ、各テーマごとに未来について活発な議論を行いました。昨年も実施した「名刺交換」のための時間を取ったことは、その後の議論のためのアイスブレイクとなりました。



名刺交換会の様子

2025YOSAKOIソーラン祭り Mirai会議 in 札幌 レポート
Mirai会議(第1・2部) / 大交流会 / 閉会式

1日目 開会式

○ 挨拶

- ・Mirai会議in札幌実行委員長(札幌南支部長) 橋本 司
- ・一般社団法人YOSAKOIソーラン祭り組織委員会
会長 星野 尚夫



○ 来賓御挨拶

- ・札幌市 副市長 加藤 修 様

第1部 お悩み解決会議(資金・チーム運営・広報・作品作り) 30分×2回転

第1部では事前アンケートで聞き取りした議論したい点や聞きたいこと、話したいことをもとに会議をおこないました。今、チームが困っていること、求めていることを少しでもチーム間の情報共有で解消できるようにマッチングする場所になりました。



第2部 Miraiをみんなで議論(地域貢献・審査・会場・ファン・次世代) 30分×2回転

第2部では来年で35年を迎えるYOSAKOIソーラン祭りについて、各チームで何ができるか、どうなっていきたいかをチームを越えて議論しました。様々なテーマを選び、未来について話し合いました。



夕食／大交流会／2次会

立食の形式で、入口でくじをひき、ランダムなテーブル割での交流会でした。YOSAKOIソーラン祭りの映像や、道外チームの紹介、新チームの紹介、また、各支部や支部長の出し物やクイズなどで盛り上がりしました。



2日目 まとめタイム・公開会議・閉会式

- 各チームごとに前日のMirai会議を振り返り、1・3・5年後のMiraiを想像
- 公開会議
 - ・ パネラー質問
 - ▶ 活動の楽しさ(つらい)1～10(楽しい)
 - ▶ 今の審査基準を変えるべき YES or NO
 - ▶ 祭り全体として地域貢献ができているか 1～10
- 次年度開催地発表
 - ・ 十勝支部 副支部長 黒田勝史／支部メンバー
- 総評・挨拶
 - ・ 一般社団法人YOSAKOIソーラン祭り組織委員会 伊藤耕作／札幌南支部 橋本司



【第1部】お悩み解決会議（資金・チーム運営・広報・作品作り）

【議題】

- お金関係の悩み（資金の使い方、資金の集め方など…）
- チーム運営の悩み（練習運営、メンバー対応、活動内容など…）
- 広報、メンバー募集の悩み（SNSや募集の方法など…）
- 作品作りの悩み（テーマや制作スケジュール、発注など…）
- アンケート結果より2つ抜粋！（ジュニア育成など…）

（主な意見抜粋）

- お金関係の悩み（資金の使い方、資金の集め方など…）
 - ◎他チームのバスに分乗させてもらったりとかして節約してます。
 - ◎3年に一回の衣装替えをしている。
 - ◎地域でのお披露目で小学生に募金をしてもらう（ある程度集まる）その際に透明なケースを使って、数枚のお札を入れておくのがポイント。
 - ◎地元の祭りで出店。ビールパーティーを開催。そこで得た利益を資金に使っている。
 - ◎スクエアというサイトを使い、オリジナルグッズと一緒に協賛金を募っている。
 - ◎知り合いのつてを使い協賛金を集め、募金をしてくれると、缶バッチをあげる。本祭が終わったら、はがきを送る。
- チーム運営の悩み（練習運営、メンバー対応、活動内容など…）
 - ◎原点に立ち戻り、方向性を決めて文字にして論理的に伝え、さらに情に訴えることが必要。
 - ◎ポストカード等を踊り子からお客さんに配る系は大事。コンテスト感があってお客さんの心が離れる防止に。
 - ◎モチベ維持については飲み会を沢山するようにしている。活動自体を楽しんでいると思う。
 - ◎バンドというアプリを使っている。ラインには無い便利な要素が多いためおすすめ。
 - ◎人数を少なくして、週の練習回数を増やすように、小さい施設の利用もでき、練習の目的に合わせて変える。
 - ◎観客がどのような層か、祭りがどのようなものか踊り子に共有し、どうアプローチしていくか皆で考える。
 - ◎自分の頑張りたいとか皆と熱くなりたいたいという気持ちを素直に表現できる環境って大事。
 - ◎隊列を作るときに揉めそうな人たちの距離をとり、間に人を入れる。→問題が起こる前に対処する。
 - ◎人と人の親睦を深める。練習の時だけでなく遊びや食事等、仲良くなった方が練習に行きやすい。
- 広報、メンバー募集の悩み（SNSや募集の方法など…）
 - ◎リアル動画に力入れてます。Tiktokもいいと思う
 - ◎一般人をターゲットにするなら普段の楽しい雰囲気と演舞のかっこいいを両方あげてギャップを作る
 - ◎大切になってくるのは、誰に見てほしい投稿なのかを意識することだと思います
 - ◎本祭直後にどれだけメンバーを集められるのかが大事（説明会や体験会など）
 - ◎本祭で踊った後すぐSNSに投稿すると、普段よりみられる数が多くなる
 - ◎地下鉄でポスターを貼る。二か月前から申請して審査が通ると掲示板に貼られる
- 作品作りの悩み（テーマや制作スケジュール、発注など…）
 - ◎スケジュール管理については年間スケジュール表を作るべきだと思う。言葉だけだと、その通りに進まない
 - ◎士気を上げるために、通常の練習とは別のことをしてテンションを上げていくといい。
 - ◎自分たちがどんなことをしたいのか、何を伝えたいのかを大切にしている。
 - ◎絶対に入りたいフレーズを先に考えて、それに合わせた振りを考えている。
 - ◎一枚絵できれいに見えるボーディングを大事にしている。
 - ◎会場が分かったらパレードとステージをリンクさせながら作っていく。
 - ◎テーマは1人100個の単語を出させて、それをグループに分けて最終的に6個にしぼる。
 - ◎幕を使う影響でスタート地点付近のお客さんは何も見えなく、見てくれる人のことも考えて演舞構成を考える
 - ◎テーマと演舞のギャップをなくすことが大切。

資金

お金関係のお悩み
(資金の使い方/資金の集め方など)

1-3 テーブル
本番当日は2000円を
用意してほしい

4-1 テーブル
同じ衣装を何回も
お金と家と渡す

1-4
スリエアというサイトと
作風は 協賛金と
あつめる! (1000円)

2-5 テーブル
みんなのメンバーの動きを見せ
自分たちに先んじてみる

2-6 テーブル
リウウワツツウテンで
資金あつめ

2-6 テーブル
毎年赤字
年末宴舞の基金
OB OGからもらう

1-5 テーブル
金銭はチーム内で集める資金を
送金された後には
イベントごとにスポンサーの
社名に集まらずにスタッフの交換

1-6
1年間で数回に
分けて会費を集める
(YouTube 投稿から分ける)

1-6
予算案を作る
年に一度総会で決算
会計報告をする

運営

チーム運営全般のお悩み
(運営運営/メンバー/活動内容の集まりなど)

1-15 テーブル
SNSの活発化により
入りたいと思わせる!!
SNSの活用が大切!!

1-15
ポスターやチラシ等が
必要!!
SNSが活用できると
いい!!

テーブル番号: 1-18
テーマ: 資金 広報 作品
地域 審査 会場 フラン 次世代

踊り子とスタッフを分ける
よここいに関わるまかして
写真を撮るところから説明会を
あつめる。

2-17 テーブル
オファシズンの
人の集まり対策

2-18 テーブル
週回の練習回数を減らして、人数は
少なく、小さいところから集めたり
できる (練習発表を減らす)

1-7 テーブル
Instagram、TikTokなどで
リール動画をつくる!!

7
1-7
新曲のPVを作る
新曲のPVを作る
過去の作品を踊る
活動の1ヶ月間のPVを作る

2-9 テーブル
よここい以外で集めてから
アポロ+

2-10 テーブル
他チームコラボの
投稿はInstagramの向上に!!
練習の回数を減らす、練習の回数を減らす

1-12
見学に来てくれた人にも
練習の回数を減らす、練習の回数を減らす
練習の回数を減らす、練習の回数を減らす

作品

作品作りのお悩み
(テーマの決め方/製作スケジュールなど)

1-27
作品に込める
思いを大切に

1-27
色々とことに
挑戦!!

1-27
写真で見ると一瞬で
きれいに映えるように
歌詞に合わせた
絶対に入れたらいい

1-27 テーブル
写真を見た時一瞬で
歌詞に合わせた
絶対に入れたらいい

2-27 テーブル
時間をかけるべき所に
かける!!

2-28
2-28
構図を交互に
変えてみる

2-28
チームの色
統一する!!

【第2部】Miraiをみんなで議論会議（地域貢献・審査・会場・ファン・次世代）

【議題】

- 地域貢献・地域貢献点とは…
- 今の審査に関して…
- 演舞会場について…（演舞会場を増やすには？）
- YOSAKOIソーラン祭りのファンを増やすには…
- 次世代の担い手について…
- アンケート結果より1つ抜粋！

（主な意見抜粋）

- ・ 地域貢献・地域貢献点とは…
 - ◎もっと支部内での連携を深めて、自分たちのところで捌ききれなかった依頼を他のチームにお願いするという連絡網、つながりを創り上げることが出来たらいいね。支部長とかにそういうお願いをしたらやってくれると思う。
 - ◎個人協賛していただいている方を訪問して、何かお手伝いできることないですか？と聞いて回るなど、ボランティア活動に力を入れている。
 - ◎点を取るより、ゴールはより広いエリア。地域とのつながりが、よさこいを広げることに繋がるのなら、地域貢献点を考える意味がある。
- ・ 今の審査に関して…
 - ◎U-20もほしい、人が多いチームが評価される傾向
 - ◎規定に関しては厳しくしてほしい。私のチームの演舞の時に、眠そうに審査をする中学生ぐらいの子がいていい気はしなかった。
 - ◎講評の酷評部分を省かないでほしい。
 - ◎3パレの制度がソーラン祭りのコンテスト化を助長しているのでは。1回目は様子見、2回目は全力、3回目は体力勝負、同じクオリティでお客さんに届けられない
- ・ 演舞会場について…（演舞会場を増やすには？）
 - ◎チカホで少人数専用会場を作って踊るのはどうか。
 - ◎観客との距離が近い会場はやる気もでるから（過去の会場も）復活してほしい。
 - ◎平日の本祭期間（水木金）なら、支部の人たちで運営できる気がする。
 - ◎小さい子が参加できる企画があった方がいい。
- ・ YOSAKOIソーラン祭りのファンを増やすには…
 - ◎パレードの機数は市民を疎外している。有料はよくないかも。
 - ◎100%応援してくれるとはならないけど何かをする。100%にするではなく少しずつでも上げるアプローチ。
 - ◎ファンが必要 人、お金 人口減り、チーム、スポンサー減る 10、20、50年続けることは難しい
 - ◎高知は近くでの演舞をしていて思ったが、ずっと応援続けられるような場所が必要。
 - ◎子供たちにかっこいい！と思ってもらう機会をもっと増やしたい。
 - ◎声をかけたくなるようなチームになる必要がある。
 - ◎本祭の中でモラルやマナーに気を付けるのは大前提。祭りはいろいろな人の協力があってできている。
 - ◎ただ踊るだけでなく、祭りの運営や観客との交流を大切にしている。
 - ◎総会や会議の場でマナー講習などを実施。衣装を着ての移動時には「チームを背負っている」という意識
- ・ 次世代の担い手について…
 - ◎こんな大人になりたいという人に自分になれることが大切。かっこいい大人になる努力が必要。
 - ◎様々な物事を自分事のように見ることが出来る人が必要。
 - ◎ジュニアチームを作ると、大人も子供も自立性を身につけるきっかけになる。
 - ◎高校生世代もターゲットにしてYOSAKOIソーランを知ってもらえるよう努力している。
 - ◎今までの先輩が作ってきたものにリスペクトを忘れずに
 - ◎社会人チームと学生チームとの交流を増やすことで、学校を卒業した後もYOSAKOIを続けていく人口を増やせるのではないかな。
 - ◎住所番地で表現されるものだけではなく、自分たちのホームでコミュニティを作る。
 - ◎内輪で盛り上がっている感を超えて広くいければいい。

4-1
テーマ: 地域 音楽 作品
地域 音楽 作品
地域 音楽 作品

モラルマタ違反を見かけたら写真も撮って
寄附、自分達はこう見
本ていと認識させる

4回目 1 テーブル
地域貢献活動の成果と、
交流、共有が目的なのは...
賛成してほいわけではなく地域の人
と共有するための地域貢献!!

3-2
テーマ: 地域 音楽 作品
地域 音楽 作品
地域 音楽 作品

3-1
地域貢献活動(チーム)は活動のなが
い活動に力を入れている。
チームの活動が、地域貢献活動
他チームの活動と関係する

3回目 2 テーブル
地域 音楽 作品
地域 音楽 作品
地域 音楽 作品

毎年行っている
"ボランティア"こそ
評価されるべき!!

地域
地域貢献・地域貢献点とは

3-3
テーマ: 地域 音楽 作品
地域 音楽 作品
地域 音楽 作品

白チームの地元以外でも
地域貢献している!!

3回目 4 テーブル
地域 音楽 作品
地域 音楽 作品
地域 音楽 作品

次世代の若者を
育てる!!

審査
今の審査に関して

3-9
テーマ: 地域 音楽 作品
地域 音楽 作品
地域 音楽 作品

地域貢献活動の成果と、
交流、共有が目的なのは...
賛成してほいわけではなく地域の人
と共有するための地域貢献!!

3-10
テーマ: 地域 音楽 作品
地域 音楽 作品
地域 音楽 作品

地域貢献活動の成果と、
交流、共有が目的なのは...
賛成してほいわけではなく地域の人
と共有するための地域貢献!!

3-7
テーマ: 地域 音楽 作品
地域 音楽 作品
地域 音楽 作品

WEB審査
パレードとステージ両方の
審査、審査員席が分か
らないようにする

3-8
テーマ: 地域 音楽 作品
地域 音楽 作品
地域 音楽 作品

YOSAKOIソラン大賞の
あとに地域貢献賞の
チームが演舞をする
→より地域に愛されるチームが主

3-11
テーマ: 地域 音楽 作品
地域 音楽 作品
地域 音楽 作品

愛着チームの良い点を公表してほしい。
ファイナル審査以外の目的がほしい!!

3回目 12 テーブル
地域 音楽 作品
地域 音楽 作品
地域 音楽 作品

ステージでもパレードでも
審査してほしい!
パレードの音源と同じ条件にしたい!!

3回目 15 テーブル
地域 音楽 作品
地域 音楽 作品
地域 音楽 作品

子供が踊るに際しては
持たせるためにパレードに
入る時間を作るとか
見ると踊るとか
(会場が広いといい...)

会場
演舞会場を増やすには

3回目 25 テーブル
地域 音楽 作品
地域 音楽 作品
地域 音楽 作品

観光名所 エバウパル
テレビ塔の時間表示に
次の演舞チーム表示!!

3-16
テーマ: 地域 音楽 作品
地域 音楽 作品
地域 音楽 作品

木更駅かアクトリ
本郷通り会場

3-15
テーマ: 地域 音楽 作品
地域 音楽 作品
地域 音楽 作品

屋内での演舞(学校内など)
系統別を一緒にやる!
子ども未定で 踊りこ演舞!

3回目 15 テーブル
地域 音楽 作品
地域 音楽 作品
地域 音楽 作品

会場として
WIN-WINになる
提案が大事!!

3回目 14 テーブル
地域 音楽 作品
地域 音楽 作品
地域 音楽 作品

大学祭 と日程をあわせて、
大学を会場にする!!

3回目 33 テーブル
地域 音楽 作品
地域 音楽 作品
地域 音楽 作品

グローバルな発表!
YOSAKOIに関する
映画を作る!!

次世代
次世代の YOSAKOI の担い手について

3-34
テーマ: 地域 音楽 作品
地域 音楽 作品
地域 音楽 作品

住所・番地ではなく
自作のホームビデオを
つくる!!

3回目 34 テーブル
地域 音楽 作品
地域 音楽 作品
地域 音楽 作品

地域とよこいとの
接点を増やす!!

4回目 35 テーブル
地域 音楽 作品
地域 音楽 作品
地域 音楽 作品

2025YOSAKOIソーラン祭り Mirai会議in札幌 開催レポート

【公開会議(パネルディカッション)・総評】

【目的】YOSAKOIソーランの未来を創るための大事な論点を全員が考え、自分事化し、小さな行動を起こせるようになること

【概要】3つのテーマについて、パネリストが議論。

会場の参加者を対象に、スマホを活用してリアルタイムのアンケートや質問募集も実施。

【パネリスト】

- ・札幌C-ASH支部 支部長 下畑 浩二（公開会議進行役）
- ・札幌TWN支部 支部長 梶浦 宣明
- ・札幌南支部 支部長 橋本 司
- ・YOSAKOIソーラン祭り組織委員会 専務理事 伊藤 耕作
- ・YOSAKOIソーラン学生実行委員会 代表 デサージョアンオ 和幸
- ・日高支部 支部長 松澤 以久子
- ・道央支部 支部長 相馬 伸太郎



《テーマ① どうすれば、未来を創るためにYOSAKOIソーランに長く関わり続けられるだろうか？》

◇会場からの質問：つらいときにどうやって乗り越えた？ここまで続けてこられたのは？

- ・自分の周り(お世話になった人や支えてくれる家族、仲間など)が喜んでいる顔がみたいというモチベーション(相馬)
- ・チームのメンバーからの熱い眼差しが支え。メンバーが楽しんでいることが代表である自分の幸せ(松沢)



◇会場からの質問：メンバーから運営陣への誹謗中傷が聞こえてきたときどうすればいいか？

- ・日頃からメンバー一人一人との信頼関係を築くことが大切(梶浦、橋本)
→練習の際にささいなことでも気が付いたら声をかける

*フリートーク：北海道外の他のYOSAKOI系祭りとの差別化についてどう考えるか？

- ・YOSAKOIソーラン祭りとしてのあり方をこうやって議論し、積み重ねていくことで自然と差別化されていく
- ・あえて「差別化」したり、他と比較する必要はない、それぞれの祭りが独自に進化していけばよい

《テーマ② 審査基準・審査のあり方は今のままで良いのか？》

◆参加者アンケート：YES or NO で回答

1. 審査は必要だと思うか？ YES・・・89% / NO・・・9.1% / その他・・・1.9%
2. 今の審査基準を変えるべき YES・・・62.6% / NO・・・28.8% / その他・・・8.6%

◇パネリスト：審査基準について

- ・以前、細かい審査基準を設けていたときもあり、その時の方は参加チームの満足度は高かったのかもしれない。ただ、その方式での審査結果に対し、毎年市民から多くのクレームがあり、市民目線の審査に移行した経緯がある。審査が過熱していった先にどうなっていくか、審査を受ける側の皆さんも責任を負って考えてほしい。(組織委)
- ・観る審査員によって結果が変わるのはおかしい、という人もいるが、同じチーム・同じ作品であっても、評価が異なることだってある。審査結果に一喜一憂しすぎないことも大切。(下畑)
- 変える必要はない
 - ・「人と地域にもっとも元気と感動を届けたチーム」が大賞になるという今の審査基準は、この祭りの目指すものがそのまま反映されている。人数などによらず大賞を目指すことができる可能性や魅力のある審査基準だと考える。(相馬)
 - ・お客さんあつての祭り。お客さんそれぞれで感動するポイントは違う。だからこそ多様性が生まれる。(橋本)
- 変えるべき
 - ・ここまでYOSAKOIソーラン祭りが発展したのは審査を通して各チームが切磋琢磨してきたから。審査を受けるのは評価してほしいからであり、いまの審査基準は抽象的でわかりにくいのもっと明確な基準に変えるべき。(梶浦)
 - ・観客目線というのであれば、もっと審査員の人数を増やしては。(梶浦)

◇会場からの質問：審査席にばかりアピールして踊るチームもあるが、「観客目線」という考え方に反するのでは？

- ・各チームが、目の前のお客さんに向けて踊る意識を持つべき(橋本)
- ・最近ではパレードで大きな幕を出すチームもあるが、そうするとスタート地点側のお客さんは踊りが見えなくなってしまう。審査員だけを意識した演出は一考する必要がある。盛り上がる演出と、観客目線というのは違ってくる。(下畑)
- ・桟敷席(観客席)にいるお客さんをランダムに審査員に選んで、特別な賞をあげるのもおもしろいのでは。(松沢)

《テーマ③地域貢献にどう向き合うか？》

◆参加者アンケート：1（当てはまらない）～10（当てはまる）で回答

1. 祭り全体として地域貢献できていると思うか？ 一番多かった回答「7」
2. 自チームで地域貢献の明確な目標があるか？ 一番多かった回答「10」
3. 自チームとして地域貢献できていると思うか？ 一番多かった回答「10」



◇パネリスト：地域貢献について

- ・「あなたたちがいてよかった」と言ってもらえるようなチーム・支部を目指して、何ができるのか考える。（橋本）
- ・住所やホームタウンという意味合いだけでなく、自分の周りの“人”のためにできることを探す。（相馬）
- ・地域のチームとして立ち上がったので、清掃活動なども当たり前のこととしてやってきたが、それが積み重なって今では小学校での演舞指導にも呼ばれるようになり、地域に認められることの大切さを感じる。（松沢）
- ・特別なことでなくても、小さな町であればそこでチームを作ったことそのものが地域を元気にしているし、支部大会などに踊りにいくことが賑わいを生み出して地域に貢献しているといえる。（下畑）

◇会場からの質問：地域によって事情も異なるので点数化して審査に組み込むよりも別枠の賞などにしては？

- ・組織委員会としても、積極的に審査に盛り込みたいわけではない。ただ、一つのクレームで祭りが継続できなくなるような時代になってきている中、祭りも変わっていく必要がある。街を借りてやっているからこそ、市民から認められ応援される祭りにならなければいけない。チームに問いかけを続ける意味でも審査に組み込んでいる。（組織委）
- ・チームとしても今まで自分たちがやってきたことを再認識して、周りにも広めて認めてもらうよい機会になる。（下畑）

◇会場からの質問：個人の大事な時間を削ってまで活動を強要されている人もいると思うがそれは地域貢献といえるのか？

- ・そもそも必ずやらなければいけないことではないし、「強要されている」とメンバーが感じるようなやり方はよくない。「楽しいからやろう」という仕組みづくりが大切で、運営陣が意識を変えていく必要があるのでは。（下畑）

《最後に》

- ・2日間いろいろな議論・意見交換をした。正解はないので、よいアイデアをまねて今後活かしてほしい。参加者が当事者となって創る新しい祭りを、みんなで話しながら作っていききたい。（下畑）
- ・「自分たちに何ができるか」を考え続けること。ポジティブなチャレンジを続けて祭りの未来を創っていききたい（橋本）
- ・どんどん外にでて人と関わって、チームの魅力・いい影響を外に広げていきましょう（相馬）
- ・お金も必要だが最後は「人」が大切。人との繋がりを大切に、祭りの未来を担ってほしい（松沢）

総評 （YOSAKOIソーラン祭り組織委員会 専務理事 伊藤耕作）

- 2日間様々な意見がでたMirai会議となった。これから第35回の準備をしていくなかで、取り入れられるものはどんどん取り入れ、皆さんにもフィードバックしたい。
- 地域貢献についても、参加者の全会一致で決まるなら外しても構わない。ただ、必要と考えている理由をご説明したので、それについても考えてみていただきたい。お互いの意見を受け入れたうえで建設的な議論をしていきたい。
- 以前のフォーラムで、「世代交代」でなく「世代継承」というお話をさせていただいた。地域の名前を背負っているチーム、大学名を背負っているチーム、様々なところから人が集まっているチーム、いろいろあると思うが、これからもチームを続けていくうえで改めて、「誰と踊りたいのか」をチーム作りの原点として考えてみてほしい。そこにアプローチをし、チーム作りをしていくことで、審査や祭りの見え方も変わっていくのではないと思う。
- 今後もチームとコミュニケーションを取りながら、50年100年と続く祭りを創っていききたい。

